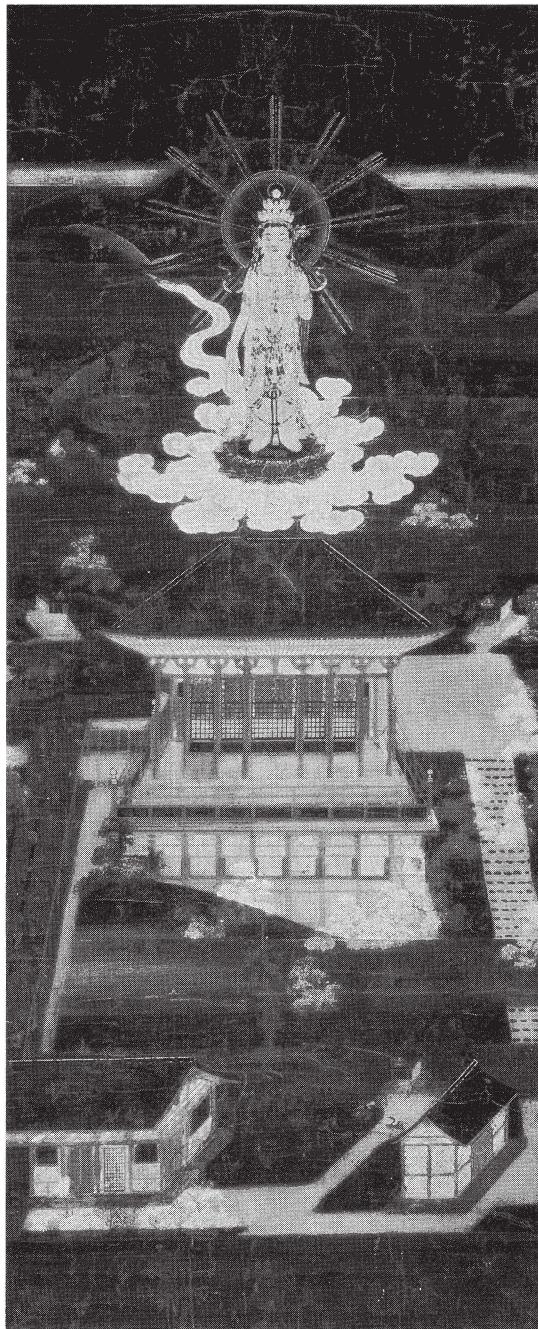


奈良
国立博物館
だより

平成10年 1・2・3月



特別陳列

経塚出土陶磁展 4

東北・越後地方に埋納されたやきもの

1月4日(日)～2月1日(日) 新館

特別陳列

東大寺二月堂とお水取り

2月21日(土)～3月22日(日) 新館

特別展観

東洋絵画の精華

クリーヴランド美術館のコレクションから

2月21日(土)～3月29日(日) 新館

平常展

仏教美術の名品

1月4日(日)～2月8日(日) 新館

〔写真解説〕

二月堂曼荼羅(東大寺)

室町時代 縦97.5cm 横39.1cm

十一面觀音が雲に乗り、山並みを越えて、東大寺の二月堂に飛來したところを描いたもの。二月堂の周囲には登廊・食堂・關伽井屋・遠敷社などがみえる。「お水取り(正しくは修二会)」は、本尊の十一面觀音に悔過をし、關伽井屋の中にある若狭井から汲んだ水を供える行法である。桜の花を美しく描き込んでいるのは、奈良に春を呼ぶ「お水取り」をおこなう二月堂にふさわしい。

特別陳列

経塚出土陶磁展 4

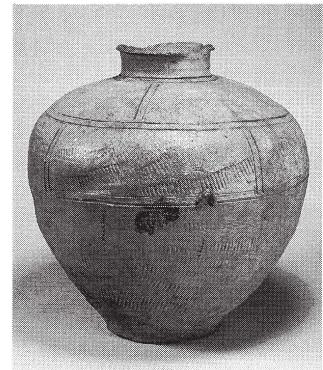
東北・越後地方に埋納されたやきもの

1月4日(日)～2月1日(日) 新館

「経塚出土陶磁展」では、これまでに畿内、中部地方、関東・北陸地方の経塚に埋納されたやきものを見てきました。今回は、岩手・秋田・山形・福島の東北4県と新潟県の経塚から出土したやきものにより、平安時代を中心とする陶磁器の流れと経塚遺物の変遷を概観します。

経塚とは、末法思想に基づき、仏法の衰滅を恐れた人びとが經典を書写して地中に埋納し、弥勒仏が出現する遙かな未来にまで保存しようとした仏教遺跡のことと、11世紀から盛んに造営されました。経塚に埋納された遺品は書写された經典を主体としますが、それらを納める容器としての經筒や、さらにそれを保護する陶製の外容器などにもさまざまな工夫と莊厳が施されています。

この特別陳列では、陶製の經容器類に焦点を合わせ、年代を特定できる作例とそれに準ずる重要な遺物、および関連する經典や經筒などを集め、地域的特徴や変遷を紹介します。

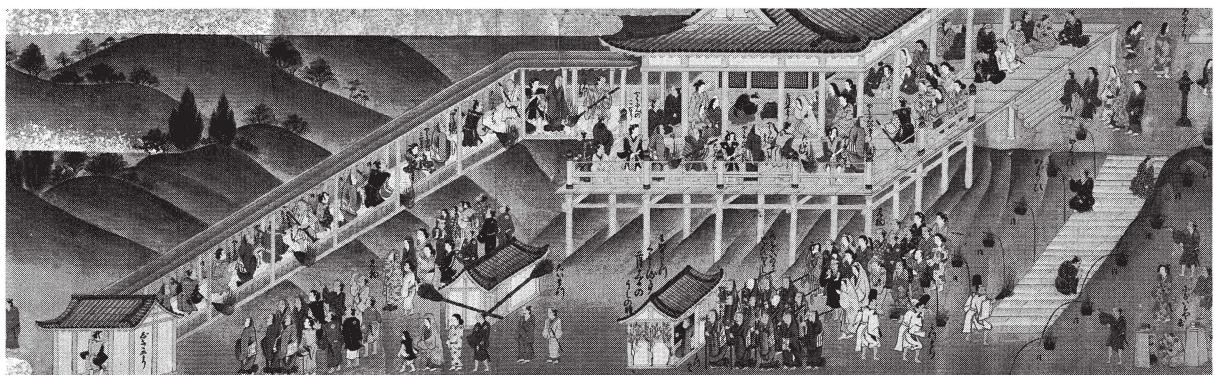


金鶴山出土 刻文壺
(東京国立博物館)

特別陳列

東大寺二月堂とお水取り

2月21日(土)～3月22日(日) 新館

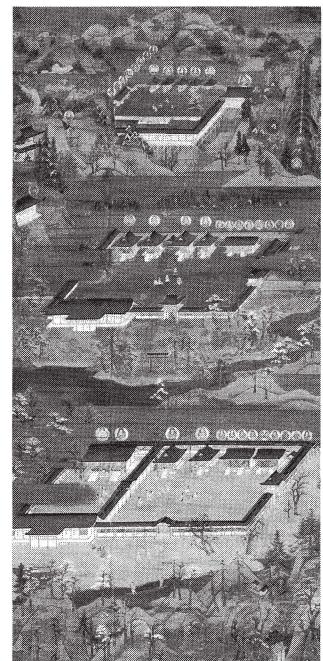


二月堂お水取り絵巻

奈良に春を呼ぶ伝統行事「お水取り」がおこなわれる時期に合わせ、東大寺二月堂と「お水取り」に関係のある彫刻・絵画・書跡・工芸品・考古遺品を集めて展示するものです。

「お水取り」は正しくは「修二会」といい、二月堂において十一面觀音に悔過をする行法です。悔過とは仏に過ちを悔いることで、奈良時代には、悔過し、その功徳によって除災招福を祈る悔過の法会が盛んにおこなわれました。東大寺二月堂の修二会は、2月20日の別火入りから3月15日の満行にいたる長期の行法で、実忠和尚によって天平勝宝4年(752)に始められたといわれています。そして今日まで、一度も休むことなく続けられてきました。

1200年以上もの長い間、「不退の行法」として今に伝えられている「お水取り」について、この機会にさらに理解を深めていただけるものと思います。



熊野曼荼羅(日本 鎌倉時代)
(クリーヴランド美術館)

特別展観

東洋絵画の精華

クリーヴランド美術館のコレクションから

2月21日(土)～3月29日(日) 新館

当館と米国のクリーヴランド美術館は、平成9年度と10年度に交換展を実施することになりました。

まず平成9年度には、クリーヴランド美術館の充実した東洋絵画コレクションから、日本・中国・韓国・インドで制作された、主として人物を描いた絵画を当館で展示します。そして平成10年度には、当館のコレクションを中心とした仏教美術の名品を、クリーヴランド美術館で展示します。

この交換展は、両館の交流を更に深めるばかりではなく、日米両国の観覧者に東洋絵画や仏教美術に対する理解をさらに深めていただけるよい機会となることでしょう。

主な展示品

特別陳列

「経塚出土陶磁展 4 東北・越後地方に埋納されたやきもの」

《岩手》山屋館経塚出土品(岩手県埋蔵文化財センター)、湯壺経塚出土品(盛岡市教育委員会)、内村経塚出土品(盛岡市教育委員会)、岩根神社経塚出土、毘沙門品山経塚出土(東京国立博物館)、金鶏山経塚出土品(東京国立博物館)、伝岩手・金鶏山経塚出土品(当館)
 《秋田》松岡経塚出土品(京都国立博物館)
 《山形》大森山経塚出土品(東京国立博物館)、大森山山頂経塚出土品(東京国立博物館)
 《福島》○米山寺経塚(3号経塚)出土品(日枝神社)〈写真〉、平沢寺経塚出土品(静嘉堂文庫美術館)、松野千光寺経塚出土品(喜多方市教育委員会)
 《新潟》加茂青海神社経塚出土品(青海神社)、不動院経塚出土品(1・2・4号経塚出土品) (不動院)、○菖蒲塚古墳経塚出土品(金仙寺)、関山神社経塚出土品(東京国立博物館)



◎米山寺経塚出土
陶製経筒外容器(日枝神社)

特別陳列

「東大寺二月堂とお水取り」

○二月堂本尊光背、二月堂本尊光背拓本、天衣片、○十一面觀音立像(旧二月堂安置)、実忠和尚坐像(以上東大寺)、○観音鉢(十一面觀音法)(西南院)、○類秘抄(十一面巻)〈写真〉(当館)、二月堂縁起、二月堂縁起断簡、東大寺縁起、二月堂曼荼羅(以上東大寺)、二月堂お水取り絵巻、紺紙銀字華嚴經(二月堂焼経)(当館)、二月堂修中過去帳、○二月堂修中練行衆日記、○鏡(堂司鏡)、金銅柄香炉、○香水杓、香水壺、○二月堂練行衆盤、○金銅鉢、鬼瓦、緑釉軒平瓦片、二彩陶器片、墨書き土器、貸錢、二彩水波文博片(以上東大寺)、緑釉水波文壇



◎類秘抄(部分)(当館)

特別展観

「東洋絵画の精華 クリーヴランド美術館のコレクションから」

〔日本〕

仁王経曼荼羅、平兼盛像、白衣觀音像、熊野曼荼羅図、福富草紙、二河白道図、融通念佛縁起絵巻、五秘密菩薩図、栄華物語絵巻断簡、柿本人麻呂像、成賢像、地蔵菩薩像、文殊渡海図、猿猴図壺、朝陽図、遊女物語絵巻、廐図、春冬山水図、龍虎図、瀟湘八景図、山水図、破墨山水図、観瀑図、琴棋書画図、風濤図、釈迦教歌仙図、山水図、南瓜図、盡昭女図、花鳥図、伊勢物語図、鳶の細道図、鳥窠図、三十六歌仙図、伊勢物語図、人物図、賀茂競馬図、蘭亭修禊図、大空文左衛門像、大津絵、琵琶湖図、俳人図、遊宴図、禊図、美人図、琴棋書画図、待人図、美人図、中国美人図、雪中美人図

〔中国〕

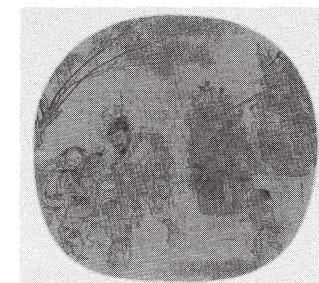
胡騎狩獵図、放牧図、百子図、嬰戲貨郎図(写真)、早秋夜泊図、聴琴図、帰樵図、松溪觀鹿図、溪橋策杖図、有餘間図巻、鍾馗元夜出遊図巻、蘆葉達磨図、白衣觀音図、帰去來図、仙山図巻、陪月間行図、迎春図巻、古木幽居図、宣文君授経図、流氓図巻、江村風雨図、倣高克恭雲山図、秋林幽色図、箕山高隱図、倣古図冊、乾隆亭及后妃図巻、麓村高逸図、九龍潭図、九日行庵文図巻

〔韓国〕

羅漢図、山水図、雪中人物図、月下舟行図

〔インド〕

フラグカーン治世におけるアルベラの包囲(ジンギスの歴史から)、川岸を歩く苦行者、アザフカーンの肖像、抱き合う恋人たち、後宮の水浴、クリシュナとバララーマをマツラに運ぶアクラ、ケダラ・ラギニの図、クリシュナの誕生、花輪を受けるクリシュナ、ラム・シン二世の虎狩り、ガジャスマラの毛皮の上のシヴァとデビ、バリに挑むスグリバ(ラーマヤナ)、クリシュナの誕生の祝い(バガバータ・プラーナ)、ヒンド・ララーガ、ラダを求めるクリシュナ(ジッタゴビンダより)



嬰戲貨郎図
(中国・南宋 李嵩筆)
(クリーヴランド美術館)

●国宝、○重要文化財。展示品は都合により一部変更する場合があります。

平常展

「仏教美術の名品」

〔彫刻〕

○銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、○銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、○銅造誕生釈迦仏立像・灌仏盤(東大寺)、○木造釈迦如来坐像(法隆寺)、○銅造藥師如来立像(般若寺)、木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、○木造阿弥陀如来坐像(安樂寿院)、○木造菩薩立像(金龍寺)〈1/4~1/18〉〈写真〉、○銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、○木造勢至菩薩立像〈六觀音のうち〉(法隆寺)、○木造十一面觀音立像(松尾寺)、○木造准胝觀音立像(常盤山文庫)、○木造地藏菩薩立像(東大寺)、○木造地藏菩薩立像(春覺寺)、○木造不動明王坐像(正寿院)、○木造不動明王坐像(園城寺)、○木造愛染明王坐像(当館)、○木造十二神将立像(室生寺)、○木造閻魔王倚像(金剛山寺)、○木造伎樂面(東大寺)、○木造舞樂面(手向山神社)、○木造舞樂面(春日大社)、○木造行道面(淨土寺)、○木造飛天(興福寺)、木造大日如來坐像(元興寺町)、○木造聖觀音立像、木造毘沙門天立像(当館)、○銅造藏王權現立像(当館)、○木造大黒天立像(西大寺)

〔絵画〕

○釈迦八相図(大福田寺)、○華嚴五十五所繪(東大寺)、○華嚴五十五所繪(東大寺)、○両界曼荼羅(長谷寺)、伊勢曼荼羅(正暦寺)、○五大尊像(来振寺)、○板繪神像(藥師寺)

〔書跡〕

○大般若經〈魚養經〉(藥師寺)、称讚淨土經(中之坊)、○円珍度縁并公驗(園城寺)、○伝燈大法師位位記(綾本)(園城寺)、○福州温州台州求法目錄(園城寺)、○聖德太子伝暦(本願寺)、弘法大師二十五箇條遺告(能満院)、○慈覺大師伝(三千院)

〔工芸〕

○金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、○金銅透彫舍利容器及内容器(西大寺)、黒漆螺鈿卓(東大寺)、○金銅迦陵頻伽文華鬘(中尊寺金色院)、○金銅種子華鬘(当館)、○金銅尾長鳥文華鬘(細見美術財団)、○金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、金銅輪宝羯磨文透彫幡、竹製花籠(性海寺)、○紙胎彩色花籠(万徳寺)、○金銅宝相華文透彫花籠(神照寺)、銅銀象嵌香炉(金山寺形香炉)(当館)、金銅柄香炉(高山寺)、金銅塔碗形合子、王子形水瓶〈承盤付き〉(当館)、王子形水瓶(当館)、王子形水瓶、王子形水瓶(当館)、王子形水瓶〈かぶら形〉(当館)、仙蓋形水瓶(当館)、信貴形水瓶、布薩形水瓶(当館)、布薩形水瓶〈魚形注口〉、八幡形水瓶、○金銅宝珠鉢、金銅五鉢(当館)、金銅宝塔鉢(当館)、○金銅五鉢四天王鉢(弥谷寺)〈写真〉、金銅種子五鉢(当館)、○金銅五鉢三昧耶鉢(金峯山寺)、金銅獨鉢(当館)、金銅三鉢、金銅五鉢(当館)、○銅鏡(円福寺)、一面器(西大寺)、○金銅獨鉢、○金銅三鉢、三鉢(当館)、金銅五大明王鉢、金銅五智宝冠(当館)、○金銅戒体箱(金剛寺)、○金銅宝相華文線刻蓮華形磬(赤松院)、○銅草花文磬(峰定寺)、○銅蓮華形磬、銅素文磬(当館)、銅孔雀文磬(当館)、刺繡種子阿弥陀三尊像(大福田寺)、○線刻十二尊鏡像(細見美術財団)、○熊野十二尊懸仏(細見美術財団)、○阿弥陀如來鏡像(当館)、藏王權現鏡像(当館)、阿弥陀如來懸仏



◎金銅五鉢四天王鉢
(弥谷寺)

予告

特別展 天平

4月25日(土)~6月7日(日)

長い間、工事が続いていた第2新館がようやく完成しました。これを記念して、春季特別展「天平」を開催します。天平時代ともよばれる奈良時代の盛期は、奈良がもっとも輝いていた時代です。それは、大仏造立に象徴されるように、仏教信仰のもと、人々の胸に、よいものを造ろうとするエネルギーがすさまじく高揚した時代でした。この特別展は、天平美術の精華を集め、あらためてその雄大なスケールとすぐれた芸術性に触れていただこうとするものです。



◎木造菩薩立像
(金龍寺)

パリの日本人

美術室研究員 磯波 恵昭

パリ・ルーヴル美術館での百濟観音展に随伴して昨年の九月から十月にかけて渡仏した。パリはもちろんのことフランスも初めての筆者にとっては何もかも印象深い一ヶ月であった。その間時間の許す限りさまざまな所を訪ねたが、とりわけ多くの美術館・博物館でヨーロッパ絵画の広大な世界を目の当たりにすることができたのはまことに得難い体験であった。

ところで、それなりに音楽好きでもあるので、今回その方面でもまたとない時間を過ごすことができた。オペラ座（オペラ・ガルニエ）でのドビュッシー「ペレアスとメリザンド」の公演もその一つであり、やはり「お国もの」の強みか大変素晴らしいものであった。ちなみに、筆者の滞在したホテルは「ペレアスとメリザンド」が初演されたオペラ・コミック座の隣であった。残念ながらコミック座は改修工事中のため、公演を聴くことはできなかったが。

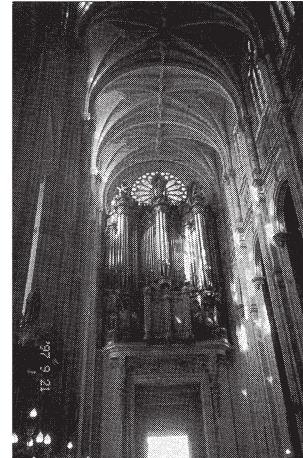
さて、初めての海外渡航でニューヨークに滞在中、コロンビア大学の近くの聖ヨハネ教会のオルガンを聴いていたく感動してから、海外に行く機会があれば日曜には教会へ行きオルガンを聴くことにしている。日曜にはミサがあり、その際にはたいていオルガンが演奏されるからである。不信心者と怒られるかもしれないが、一昨年にはドイツのケルン大聖堂でも運良く聴くことができ、今回のパリ行きでもひそかに楽しみにしていた。

ルーヴル美術館から歩いて10分ほどのところにサントゥスタッッシュ（聖ユスティッシュ）教会有ある。ルイ14世が洗礼を受け、ベルリオーズ自らの指揮で「テ・デウム」が初演された由緒ある教会で、以前からこここのオルガンを録音したCDを持っていたのであるが、ある日曜日の午前中にミサに行ってみた。

海外のオーケストラやオペラが来日することはあるがオルガンが日本へ来る可能性はもちろんなく、古い教会に響く大オルガンを聴くことは日本ではまずできない貴重な体験であり、その期待にわくわくしながら、ひんやりと涼しい教会に入っていった。近年新造に近い大改修を受けたオルガンの、フランスのオルガンらしく華やぎのある輝かしい音色が耳に残ったが、夕方にはさらにオルガンコンサートがあることがわかり、ルーヴル美術館での閉館時の点検の後でもう一度立ち寄ってみることにした。ちなみにこのコンサートは毎日曜日に行われ、わずか30分ではあるが、筆者の聴いた3回だけでもバッハ、シューマン、デュプレ、さらにはブルックナーの交響曲の編曲版まで演奏されるという多彩で充実したものであった。

その日夕方、再び教会に足を踏み入れ、午前中のミサの時には遠慮して端の方でこっそりと立っていたのであるが、入口上部に設置されているオルガンの指向性の強い高音のパイプの音をできるだけ良く聴きたいと思い前の方の空席を探しながら中央の通路を歩み始めたときであった。ふと見覚えのある後ろ姿が目に入ってきた。京都国立博物館のA氏であった。出張でパリに来られていた氏からは前日に連絡を頂き一緒に食事をしたのであるが、この日は約束などなく、全くの偶然である。ほどなく同行の東京国立博物館T氏も入って来られ、並んでオルガンの響きに聴き入ることになった。この時期パリに来ている日本人は観光客を中心にかなり多いのだが、こんなところでお二人に会うとは思ってもみなかった。遠く日本を離れ、パリならではの雰囲気に入ろうと思ってこの教会を訪れたのに、日本人の、しかも同業の人に会うとは何という縁であろうか。

その翌々日、お二人にまた街角でばったりと出くわした。さすがにこれだけ続くと、不思議な縁というより、われわれの行動パターンはそんなに共通点が多いものかと思わず苦笑せずにいられなかったのである。



サントゥスタッッシュ教会

予告 特別展観 「百濟観音」

9月8日(火)～10月4日(日)

昨年は「フランスにおける日本年」にあたり、日本を代表する文化財として、百濟観音がパリのルーヴル美術館で展観されました。今年の10月には法隆寺に百濟観音堂が完成し、百濟観音はそこに安置されるので、法隆寺以外で見ることができるのはこれが最後になると思われます。百濟観音は、奈良帝室博物館(今の奈良国立博物館)に寄託されていたこともあります。当館とは深い御縁があります。「百濟観音 最後の旅」を当館でぜひ御覧ください。

◆公開講座 特別陳列「経塚出土陶磁展4 東北・越後地方に埋納されたやきもの」

1月17日(土) 「経塚出土の陶磁器は語る」 国立歴史民俗博物館考古研究部教授 吉岡康暢

◆記念講演 特別展観「東洋絵画の精華 クリーヴランド美術館のコレクションから」

2月21日(土) 「クリーヴランド美術館の東洋絵画」 クリーヴランド美術館キュレーター マイケル・カニンガム

いずれも午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

◆ギャラリートーク

1月14日(水) 「東北・越後の経塚出土陶器」

考古室長 井口喜晴

3月11日(水) 「東大寺二月堂とお水取り」

普及室長 西山 厚

いずれも午後2時より、新館陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆奈良国立博物館 友の会 平成10年度会員募集

平成10年度「友の会」の会員を募集いたします。

本年度より申し込みの方法が変わりましたので、ご注意ください。

募集要項および振込用紙を郵送希望の方は、返信用封筒(80円切手貼付・宛名明記)を同封の上、当館「友の会係」までお申し込みください。(現会員の方には継続案内を1月中旬にお送りいたします)

会費:一般1800円 学生1150円 (ただし、うち50円は会員証郵送料)

会員の特典:①奈良・東京・京都国立博物館を無料で観覧できます。

(ただし特別展等は1回限り無料)

②奈良国立博物館発行の博物館案内、展覧会カタログ等の出版物を各1部、1割引で購入できます。ただし、出版物によっては割引できない場合もありますので、ミュージアムショップでお確かめください。

受付期間: 2月2日(月)~2月13日(金)

申込方法: 所定の振込用紙に必要事項を記入の上、上記期間中に最寄りの郵便局で会費を振り込んでください。

この件に関するお問い合わせは、下記へお願いいたします。

奈良国立博物館普及室友の会係 〒630奈良市登大路町50 TEL0742-22-4460

◆ボランティアによる作品解説

ボランティア活動者による作品解説をおこなっています。

解説は、開館日の10:00~11:00~14:00~15:00の1日4回(約30分間)を予定しています。30名を超える修学旅行の団体等で、ボランティアの解説を希望される場合は、2週間前までに奈良国立博物館に申し込んでください。また、5名以上のグループで解説を希望される場合は、新館入口正面の受付カウンターにお申し出ください。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金 每月第2・4土曜日は、小・中学生無料

平常展		大人	高・大生	小・中生
一般	420円	130円	70円	
団体	210円	70円	40円	

*団体は責任者が引率する20名以上。

*特別展観・特別陳列もこの料金で観覧できます。

無料観覧日 1月15日(祝)〈若草山山焼き〉

2月3日(火)〈春日大社万燈籠〉

3月12日(木)〈お水取り〉

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレfonサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**
ホームページ〈URL〉<http://www.narahaku.go.jp/>